2013年２月１日

Questionnaire report of Migration to Kami - city

移住ニーズ
アンケート調査
報告書

（香美市）

依光晃一郎後援会

目　次

Ⅰ　はじめに　～調査の目的と方法～　2

Ⅱ　結果　2
（１）居住地域　2
（２）性別　3
（３）年齢　3
（４）現在の家族構成　4
（５）移住当時の家族構成　4
（６）移住歴　5
（７）移住前の都道府県　6
（８）移住前の市町村　7
（９）移住先として香美市を選んだ理由　7
(10) 移住に対する家族や周囲の市町村　8
(11) 移住を決める前に香美市に足を運んだ回数　10
(12) 現在の職業　10
(13) 以前の職業　11
(14) 移住時の家　12
(15) 移住時の家の探し方　12
(16) 移住の時との家の比較　13
(17) 現在の家の探し方　13
(18) 香美市に関する情報収集の方法　14
(19) 移住を検討する際の不安材料　15
(20) 移住後の暮らしの満足度　18
(21) 県外からの移住希望　22
(22) 県外からの移住が増えるために必要なこと　23
(23) 移住者に対する行政支援に関する要望　24
(24) 移住者に対する職場・学校・地域の取り組みに関する要望　27
(25) 将来について　29
(26) 香美市の今の暮らしや今後、ふるさとへの思い　30
(27) 東日本被災地域からの移住者受け入れについて　32
(28) 東日本被災地域からの移住者受け入れのために必要なこと 32

Ⅲ　まとめ　34

アンケート原本

Ⅰ　はじめに　～調査の目的と方法～

【調査目的】

本調査は、東日本地域の震災等を背景として、高知県香美市（予想される東南海地震による津波被害の心配がない）への移住の実態があることをふまえ、移住者の移住時の状況と移住後の状況、移住受け入れに対する考え方などを聞き取り調査により明らかにし、高知県における今後の移住受け入れの可能性と課題を明らかにすることを目的とする。

【調査方法】

本調査は、上記目的のためにアンケート調査票を作成し、無記名方式を前提として、香美市への移住者を対象として訪問聞き取り調査を実施した。主として調査員と面識のある個人を訪ねて回り、協力の得られた 41 名を対象に訪問調査をおこなった。

調査実施時期は、平成 24 年 12 月である。

Ⅱ　結果

（１）居住地域

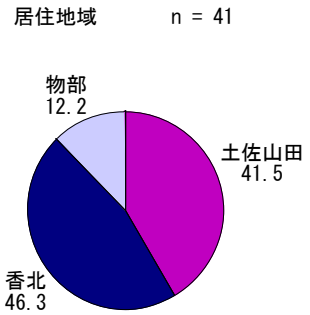
香美市は、合併前の旧市町村である土佐山田地区、香北地区、物部地区から構成されるが、調査対象者の居住地域は、土佐山田地区が 17 名、香北地区が 19 名、物部地区が 5 名となっている（図表 1―1、図表 1―2）。

図表 1―1

居住地域　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	土佐山田	17	41.5	41.5
2	香北	19	46.3	46.3
3	物部	5	12.2	12.2
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 1―2



（２）性別

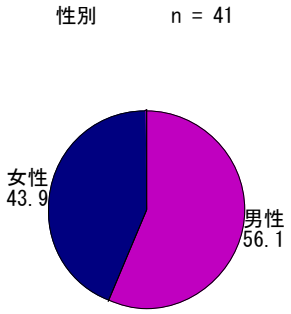
調査対象者の性別は、男性 23 名、女性 18 名となっている（図表 2―1、図表 2―2）。

図表 2―1

性別　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	23	56.1	56.1
2	女性	18	43.9	43.9
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 2―2



（３）年齢

調査対象者の年齢は、30 代、40 代の順に 10 名以上で多く、20 代、50 代、60 歳以上が 5 名以下となっている（図表 3―1）。

図表 3―1

年齢　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	２０歳代	5	12.2	12.2
2	３０歳代	18	43.9	43.9
3	４０歳代	11	26.8	26.8
4	５０歳代	3	7.3	7.3
5	60歳代以上	4	9.8	9.8
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

（４）現在の家族構成

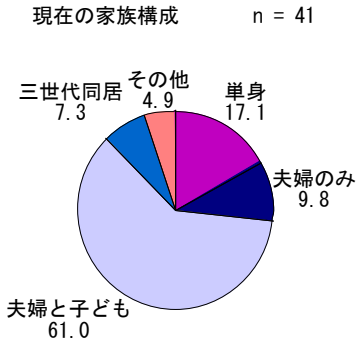
調査対象者の現在の家族構成は、「夫婦と子ども」が 25 名と最も多く、「単身」が次いで多く、「夫婦のみ」世帯や「三世代同居」世帯である人が続く（図表 4―1、図表 4―2）。

図表 4―1

現在の家族構成　　(SA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	単身	7	17.1	17.1
2	夫婦のみ	4	9.8	9.8
3	夫婦と子ども	25	61.0	61.0
4	三世代同居	3	7.3	7.3
5	その他	2	4.9	4.9
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 4―2



（５）移住当時の家族構成

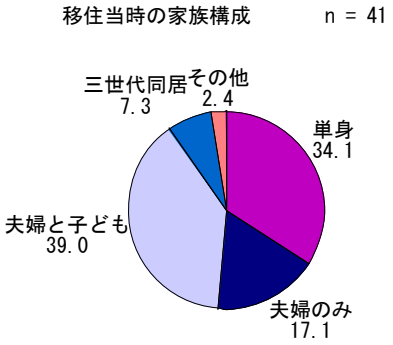
調査対象者の移住当時の家族構成は、「夫婦と子ども」が 16 名と最も多く、「単身」が次いで多く、「夫婦のみ」世帯、「三世代同居」世帯である人が続く（図表 5―1、図表 5―2）。移住当時の方が単身世帯が多く、（４）の通り、現在は減少している反面、「夫婦と子ども」世帯の割合は増えている。移住時は単身であったが、後から家族も移住したか、移住後に家族をもつようになったことが考えられる。

図表 5―1

移住当時の家族構成　(SA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	単身	14	34.1	34.1
2	夫婦のみ	7	17.1	17.1
3	夫婦と子ども	16	39.0	39.0
4	三世代同居	3	7.3	7.3
5	その他	1	2.4	2.4
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 5—2



（６）移住歴

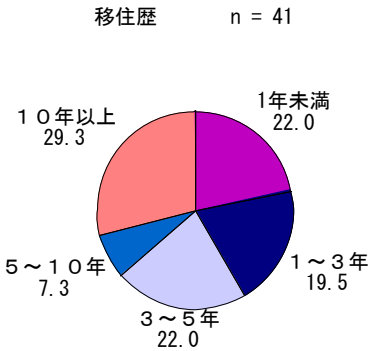
調査対象者の移住歴は、「1 年未満」、「1 年以上 3 年未満」、「3 年以上 5 年未満」の比較的最近移住した人がそれぞれ 2 割程度である反面、「10 年以上」の長期になっている人が 10 名以上で 3 割程度を占める（図表 6—1、図表 6—2）。

図表 6—1

移住歴　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1年未満	9	22.0	22.0
2	１～３年	8	19.5	19.5
3	３～５年	9	22.0	22.0
4	５～１０年	3	7.3	7.3
5	１０年以上	12	29.3	29.3
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 6—2



（７）移住前の都道府県

調査対象者の移住前の都道府県は東京都が９名と最も多く、高知県内が５名と次いで多く、神奈川県が３名の他、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県の東日本地域、愛知県、滋賀県、京都府、奈良県、岡山県が各２名となっている（図表 7―1）。

図表 7―1

移住前の都道府県　(MA)

№.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	北海道	0	0.0	0.0
2	青森県	0	0.0	0.0
3	岩手県	0	0.0	0.0
4	宮城県	1	2.4	2.4
5	秋田県	0	0.0	0.0
6	山形県	0	0.0	0.0
7	福島県	2	4.9	4.9
8	茨城県	2	4.9	4.9
9	栃木県	0	0.0	0.0
10	群馬県	0	0.0	0.0
11	埼玉県	2	4.9	4.9
12	千葉県	2	4.9	4.9
13	東京都	8	19.5	19.5
14	神奈川県	3	7.3	7.3
15	新潟県	0	0.0	0.0
16	富山県	0	0.0	0.0
17	石川県	1	2.4	2.4
18	福井県	0	0.0	0.0
19	山梨県	0	0.0	0.0
20	長野県	0	0.0	0.0
21	岐阜県	0	0.0	0.0
22	静岡県	0	0.0	0.0
23	愛知県	2	4.9	4.9
24	三重県	0	0.0	0.0
25	滋賀県	2	4.9	4.9
26	京都府	2	4.9	4.9
27	大阪府	1	2.4	2.4
28	兵庫県	1	2.4	2.4
29	奈良県	2	4.9	4.9
30	和歌山県	0	0.0	0.0
31	鳥取県	0	0.0	0.0
32	島根県	0	0.0	0.0
33	岡山県	2	4.9	4.9
34	広島県	1	2.4	2.4
35	山口県	0	0.0	0.0
36	徳島県	0	0.0	0.0
37	香川県	1	2.4	2.4
38	愛媛県	1	2.4	2.4
39	高知県	5	12.2	12.2
40	福岡県	0	0.0	0.0
41	佐賀県	0	0.0	0.0
42	長崎県	1	2.4	2.4
43	熊本県	0	0.0	0.0
44	大分県	0	0.0	0.0
45	宮崎県	0	0.0	0.0
46	鹿児島県	0	0.0	0.0
47	沖縄県	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	0.0
	サンプル数(%ベース	41	100.0	41

（８）移住前の市町村

調査対象者の移住前の市町村を市部と町村部に区別してみた場合、市部が 38 名と大部分を占めており、町村部は 3 名となっている（図表 8―1）。

図表 8―1

移住前の市町村　　（SA）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	市部	38	92.7	92.7
2	町村部	3	7.3	7.3
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

（９）移住先として香美市を選んだ理由

移住先として、香美市を選んだ理由としては（複数回答可）、「自然環境が良い」が 26 名と最も多く、「就職先（仕事）がある」、「農業ができる」、「家族、親戚、友人が住んでいる」、「趣味が満喫できる」などが続いている。なお、「原発事故の影響」という理由をあげる人が 7 名見られた。

図表 9―1

香美市を選んだ理由　（MA）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	家族、親戚、友人が住んでいる	13	31.7	31.7
2	交通の便が良い	4	9.8	9.8
3	移住前の居住地から近い	0	0.0	0.0
4	自然環境が良い	26	63.4	63.4
5	教育環境が整ってい	3	7.3	7.3
6	生活基盤（医療・福祉等）の充実	0	0.0	0.0
7	家、土地が安い	6	14.6	14.6
8	就職先（仕事）があ	22	53.7	53.7
9	農業が出来る	15	36.6	36.6
10	趣味が満喫できる	10	24.4	24.4
11	原発事故の影響	7	17.1	17.1
12	おいしい食材がある	8	19.5	19.5
13	その他	12	29.3	29.3
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

移住先として香美市を選んだ理由を地区別に見た場合、土佐山田地区では、「就職先（仕事）がある」や「交通の便が良い」が相対的に高い理由となっており、香北・物部の両地区では「農業ができる」、物部地区では「趣味が満喫できる」が相対的に高い理由となっている（図表 9―2）。

図表 9—2

香美市を選んだ理由×居住地域

上段：度数 下段：%		香美市を選んだ理由													
		合計	家族、親戚、友人が住んでいる	交通の便が良い	移住前の居住地から近い	自然環境が良い	教育環境が整っている	生活基盤（医療・福祉等）の充実	家、土地が安い	就職先（仕事）がある	農業が出来る	趣味が満喫できる	原発事故の影響	おいしい食材がある	その他
居住地域	合計	41 100.0	13 31.7	4 9.8	- -	26 63.4	8 7.8	- -	6 14.6	22 53.7	15 36.6	10 24.4	7 17.1	8 19.5	12 29.3
	土佐山田	17 100.0	4 23.5	3 17.6	- -	7 41.2	1 5.9	- -	- -	13 76.5	5 29.4	4 23.5	- -	2 11.8	3 17.6
	香北	13 100.0	7 36.8	1 5.3	- -	15 78.9	2 10.5	- -	5 26.3	9 47.4	8 42.1	3 15.8	6 31.6	2 10.5	7 36.8
	物部	5 100.0	2 40.0	- -	- -	4 80.0	- -	- -	1 20.0	- -	2 40.0	3 60.0	1 20.0	4 80.0	2 40.0

（10）移住に対する家族や周囲の市町村

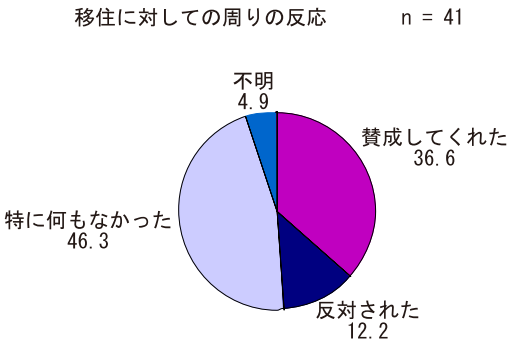
移住についての家族や周囲の反応を尋ねたところ、「賛成してくれた」が 15 名、「反対された」は 5 名であるが、「特に何もなかった」が 19 名と最も多い（図表 10—1、図表 10—2）。

図表 10—1

移住に対しての周りの反応　（SA）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	賛成してくれた	15	36.6	38.5
2	反対された	5	12.2	12.8
3	特に何もなかった	19	46.3	48.7
	不明	2	4.9	
	サンプル数（%ベース	41	100.0	39

図表 10—2



移住に「賛成してくれた」、「反対された」理由として、家族、周囲からどのような意見があったかをたずねたところ（図表 10—3）、内容で区別すると（一人の意見に複数ある場合を含む）、賛成理由としては、「実家に近くなった」（4 名）、「放射能の影響がない」（4 名）、「がんばるよう励まされた」（3 名）、「自分で判断すればよいと賛成された」（2 名）、「自然環境が良い」、「交通の便が良くなった」があげられている。

反対理由としては、「遠くへ離れることへの心配」（5名）、「仕事の内容や機会、転職への心配」（5名）が多く、「南海地震への不安」、「知り合いがいない」という意見も見られた。

図表 10—3

No	回答
1	親族から遠くなるし、新たな職に就くのは良くない。放射能の心配が無くなるのは良いが、南海地震が心配ではないか。新居が勿体無い。
2	愛媛の実家が近くなったので良い。
3	農業の研修をすることに反対された。高知に知り合いがいないので心配された。
6	何よりも命と健康が大事なので、少しでも放射能の影響のないところへ行くのは良い。
7	放射能への理解もなかったし、遠く離れてしまうので心配。
8	放射能から逃れられるので賛成された。
9	空気や水道水がキレイで賛成された
12	就職について心配された。
15	実家が西日本なので賛成してくれた。
16	最初は一年間の期限付きの予定であり、親戚の出身地だったので賛成してくれた。
18	長男だった為、遠く離れることについて母親から反対があった。また、僻地で開業してはたしてうまくいくのかと反論。
21	放射能から逃れられるので賛成された。が一方、職場が変わることに反対された。
22	頑張ってきなさいと励まされた。
23	思ったとおりに生きなさい。チャレンジしなさい。
25	自分で決めたなら頑張りなさい。
28	距離が遠いので心配された。両親も一度も訪れたことがない土地。
29	実家が近くなり賛成された。
32	原発から離れ汚染のない場所へ移動することは賛成されたが、新転地での仕事や子育てについて心配された。
33	自由にしたら良いと賛成された。
36	高知市に実家があり、少し離れた場所であったため反対された。
40	交通の便が良くなったので、賛成してくれた。
41	やりたい仕事を精一杯するように励まされた。

(11) 移住を決める前に香美市に足を運んだ回数

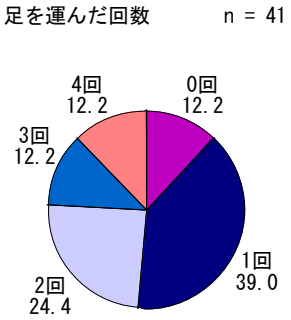
調査対象者が移住を決める前に香美市に足を運んだ回数は、「1 回」が 16 名、「2 回」が 10 名と多く、「3 回」と「4 回」が 5 名となっている。一回も足を運ばずに決めた人も 5 名いる（図表 11―1、図表 11―2）。

図表 11―1

足を運んだ回数　　(SA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	0回	5	12.2	12.2
2	1回	16	39.0	39.0
3	2回	10	24.4	24.4
4	3回	5	12.2	12.2
5	4回	5	12.2	12.2
6	５回以上	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 11―2



(12) 現在の職業

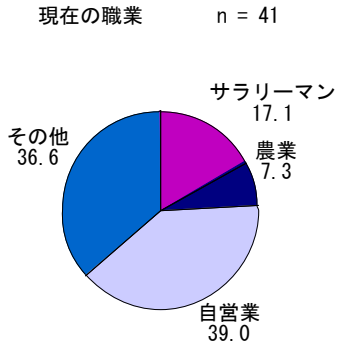
現在の職業は、自営業が 16 名と最も多く、サラリーマン、農業と続いている。「その他」も 15 名と多い（図表 12―1、図表 12―2）。

図表 12―1

現在の職業　　(SA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	サラリーマン	7	17.1	17.1
2	農業	3	7.3	7.3
3	自営業	16	39.0	39.0
4	その他	15	36.6	36.6
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 12―2



(13) 以前の職業

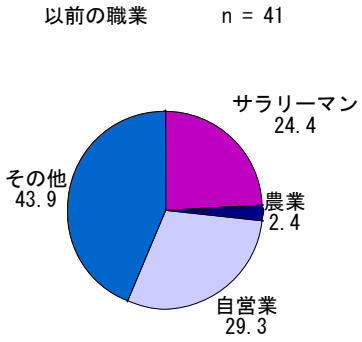
以前の職業は、自営業が 12 名と最も多く、サラリーマン、農業と続いている。「その他」も 18 名と多い（図表 13―1、図表 13―2）。（12）と比較すると、現在は、サラリーマンと農業が減り、自営業と「その他」が増えた、ということになる。

図表 13―1

以前の職業　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	サラリーマン	10	24.4	24.4
2	農業	1	2.4	2.4
3	自営業	12	29.3	29.3
4	その他	18	43.9	43.9
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 13―2



（14）移住時の家

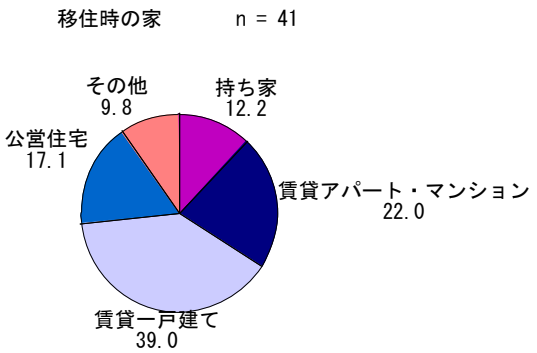
移住時の家は、「賃貸一戸建て」が 16 名と最も多く、「賃貸アパート・マンション」が 9 名、「公営住宅」が 7 名、「持ち家」が 5 名と続く（図表 14―1、図表 14―2）。

図表 14―1

移住時の家　　（SA）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	持ち家	5	12.2	12.2
2	賃貸アパート・マンション	9	22.0	22.0
3	賃貸一戸建て	16	39.0	39.0
4	公営住宅	7	17.1	17.1
5	その他	4	9.8	9.8
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 14―2



（15）移住時の家の探し方

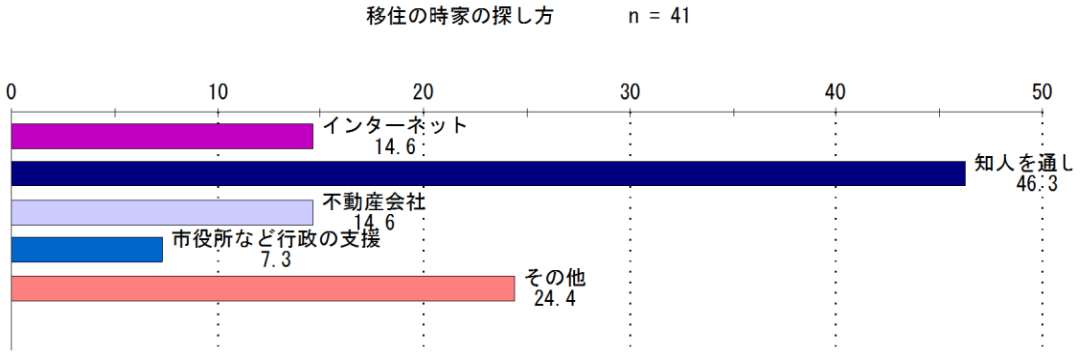
移住時の家の探し方は、「知人を通して」が 19 名と最も多く、「インターネット」と「不動産会社」が各 6 名、「行政の支援」が 3 名などとなっている（図表 15―1、図表 15―2）。

図表 15―1

移住の時家の探し方　（MA）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	インターネット	6	14.6	14.6
2	知人を通して	19	46.3	46.3
3	不動産会社	6	14.6	14.6
4	市役所など行政の支援	3	7.3	7.3
5	その他	10	24.4	24.4
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 15―2



（16）移住の時との家の比較

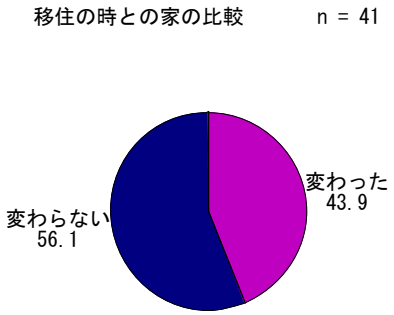
現在の住まいが移住時と変わったかを尋ねたところ、「変わらない」が 23 名であるが、「変わった」という人も 18 名いる（図表 16―1、図表 16―2）。

図表 16―1

移住の時との家の比較　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	変わった	18	43.9	43.9
2	変わらない	23	56.1	56.1
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 16―2



（17）現在の家の探し方

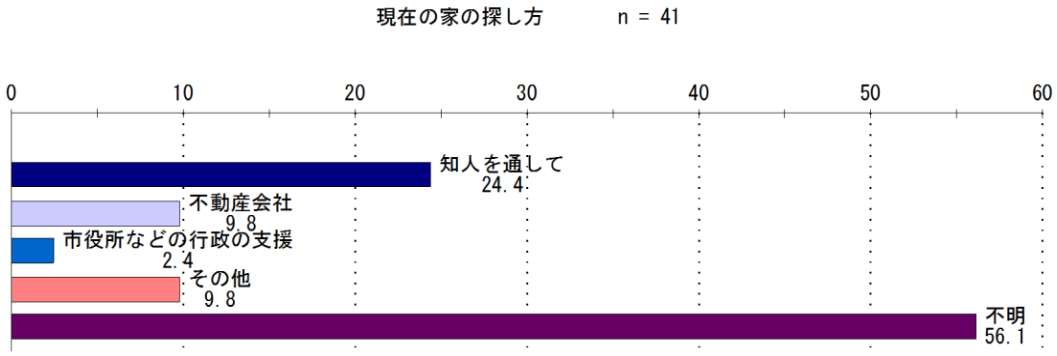
移住時と現在の家が変わったという人に、現在住んでいる家はどう探されたかを尋ねたところ、「知人を通して」が 10 名と最も多く、「不動産会社」が続く（図表 17―1、図表 17―2）。

図表 17—1

現在の家の探し方　（MA）

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	インターネット	0	0.0	0.0
2	知人を通して	10	24.4	55.6
3	不動産会社	4	9.8	22.2
4	市役所などの行政の支援	1	2.4	5.6
5	その他	4	9.8	22.2
	不明	23	56.1	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	18

図表 17—2



（18）香美市に関する情報収集の方法

移住を検討している時の香美市に関する情報をどこから集めたかを尋ねたところ（複数回答可）、「インターネット」が 17 名と最も多く、「香美市に住んでいる親戚や知人」が 16 名、「行政への問い合わせ」が 10 名などとなっている（図表 18—1）。家を探すうえでのインターネットの活用は少なく、知人を介する場合が多いが（15、17）、香美市に関する情報を得るうえでは、活用度が高い。

図表 18—1

情報収集の方法　（MA）

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	インターネット	17	41.5	41.5
2	移住パンフレットや関連イベント	2	4.9	4.9
3	広報誌	3	7.3	7.3
4	行政への問い合わせ	10	24.4	24.4
5	雑誌・テレビ・新聞	1	2.4	2.4
6	香美市に住んでいる親戚や知人	16	39.0	39.0
7	その他	7	17.1	17.1
8	特になし	9	22.0	22.0
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

(19) 移住を検討する際の不安材料

香美市への移住を検討している時の不安材料は、どのような点であったかを明らかにするために、住居、仕事・就業、地域づきあい、生活習慣・文化、金銭面、学校・保育所等に分けて、その程度を尋ねた。

１）住居

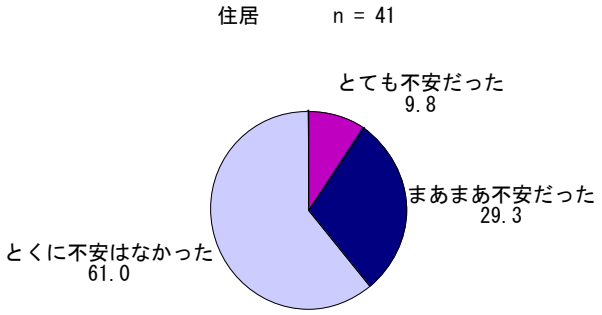
住居に関しては、「とても不安」と「まあまあ不安」を合わせた不安派は 16 名であるのに対して、「とくに不安はなかった」という人は 25 名となっている。

図表 19－1－1

住居　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても不安だった	4	9.8	9.8
2	まあまあ不安だった	12	29.3	29.3
3	とくに不安はなかっ	25	61.0	61.0
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 19－1－2



２）仕事・就業

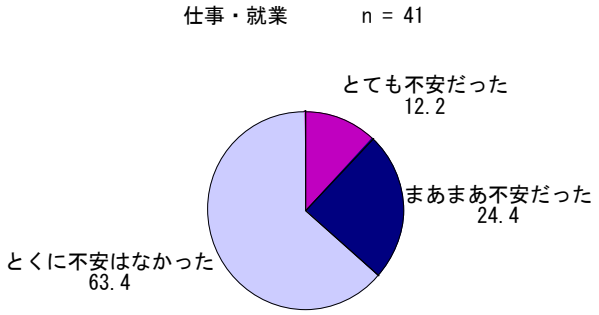
仕事・就業に関しては、「とても不安」と「まあまあ不安」を合わせた不安派は 15 名であるのに対して、「とくに不安はなかった」という人は 26 名となっている（図表 19－2－1、図表 19－2－2）。

図表 19－2－1

仕事・就業　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても不安だった	5	12.2	12.2
2	まあまあ不安だった	10	24.4	24.4
3	とくに不安はなかっ	26	63.4	63.4
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 19－2－2



３）地域づきあい

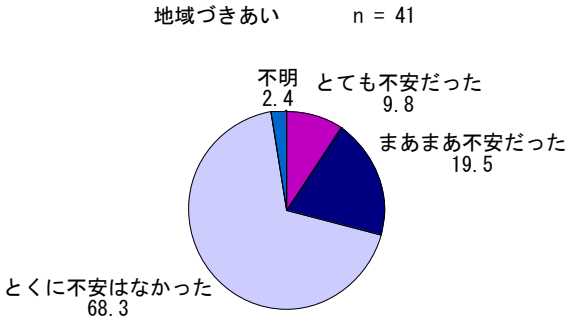
地域づきあいに関しては、「とても不安」と「まあまあ不安」を合わせた不安派は 12 名であるのに対して、「とくに不安はなかった」という人は 28 名となっている（図表 19－3－1、図表 19－3－2）。

図表 19－3－1

地域づきあい　　(SA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても不安だった	4	9.8	10.0
2	まあまあ不安だった	8	19.5	20.0
3	とくに不安はなかっ	28	68.3	70.0
	不明	1	2.4	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	40

図表 19－3－2



４）生活習慣・文化

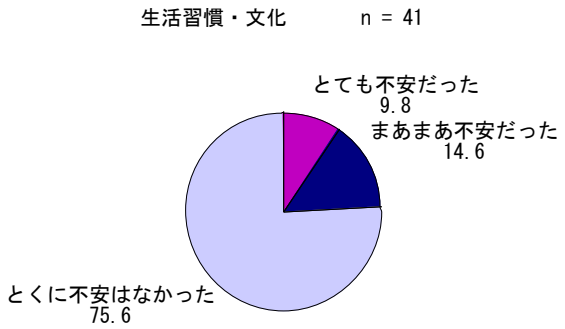
生活習慣・文化に関しては、「とても不安」と「まあまあ不安」を合わせた不安派は 10 名であるのに対して、「とくに不安はなかった」という人は 31 名となっている（図表 19－4－1、図表 19－4－2）。

図表 19－4－1

生活習慣・文化　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても不安だった	4	9.8	9.8
2	まあまあ不安だった	6	14.6	14.6
3	とくに不安はなかっ	31	75.6	75.6
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 19－4－2



５）金銭面

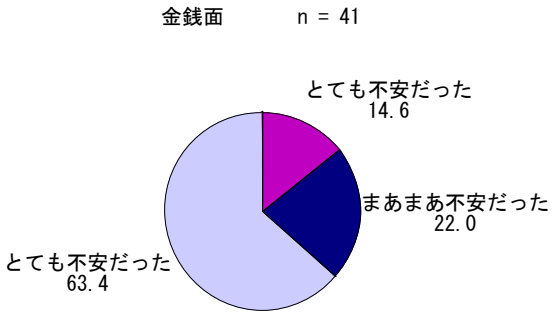
金銭面に関しては、「とても不安」と「まあまあ不安」を合わせた不安派は 15 名であるのに対して、「とくに不安はなかった」という人は 26 名となっている（図表 19－5－1、図表 19－5－2）。

図表 19－5－1

金銭面　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても不安だった	6	14.6	14.6
2	まあまあ不安だった	9	22.0	22.0
3	とても不安だった	26	63.4	63.4
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 19－5－2



６）学校・保育所等

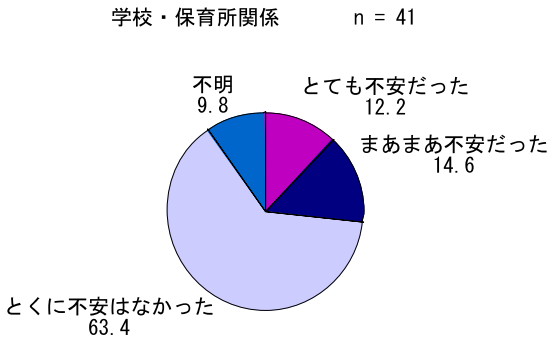
学校・保育所等に関しては、「とても不安」と「まあまあ不安」を合わせた不安派は11名であるのに対して、「とくに不安はなかった」という人は26名となっている（図表 19－6－1、図表 19－6－2）。

図表 19－6－1

学校・保育所関係　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても不安だった	5	12.2	13.5
2	まあまあ不安だった	6	14.6	16.2
3	とくに不安はなかっ	26	63.4	70.3
	不明	4	9.8	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	37

図表 19－6－2



全体的に見ると、特に「生活習慣・文化」や「地域づきあい」では、不安に感じる人数が少ない。香美市の生活や地域づきあいに慣れてゆくことへの不安は小さいと言える。

(20) 移住後の暮らしの満足度

１）移住直後

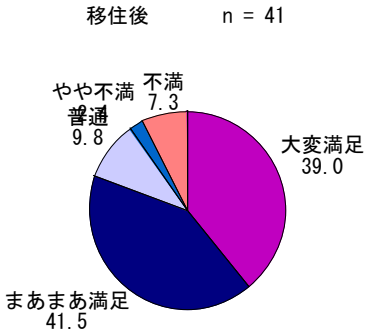
移住後の香美市の暮らしの満足度を尋ねたところ、「大変満足」と「まあまあ満足」を合わせた満足派が 33 名であり、「やや不満」と「不満」を合わせた不満派は 4 名にとどまる（図表 20－1－1、図表 20－1－2）。

図表 20－1－1

移住後　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	大変満足	16	39.0	39.0
2	まあまあ満足	17	41.5	41.5
3	普通	4	9.8	9.8
4	やや不満	1	2.4	2.4
5	不満	3	7.3	7.3
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 20－1－2



さらに、満足、不満足である理由を尋ねたところ、「住居」、「趣味や生きがい」、「人間関係」、「自然環境」、「食生活」などの順に「大変満足」という割合が高い。逆に、「不満」の割合は、「生活基盤（医療、福祉サービス等）」、「子どもの教育環境」、「交通の便」の順に割合が高い（図表 20－1－3）。

図表 20－1－3

移住後 × 満足・不満の理由

上段:度数 下段:%		移住後					
		合計	大変満足	まあまあ満足	普通	やや不満	不満
満足・不満の理由	合計	36 100.0	16 44.4	16 44.4	- -	1 2.8	3 8.3
	人間関係	18 100.0	10 55.6	5 27.8	- -	1 5.6	2 11.1
	交通の便	9 100.0	2 22.2	4 44.4	- -	1 11.1	2 22.2
	自然環境	31 100.0	15 48.4	16 51.6	- -	- -	- -
	子どもの教育環境	8 100.0	2 25.0	3 37.5	- -	1 12.5	2 25.0
	生活基盤（医療・福祉サービス等）	3 100.0	- -	- -	- -	1 33.3	2 66.7
	住居	20 100.0	12 60.0	5 25.0	- -	1 5.0	2 10.0
	仕事	19 100.0	8 42.1	8 42.1	- -	- -	3 15.8
	趣味や生きがい	14 100.0	8 57.1	4 28.6	- -	- -	2 14.3
	原発事故の環境	6 100.0	2 33.3	4 66.7	- -	- -	- -
	食生活	21 100.0	10 47.6	10 47.6	- -	1 4.8	- -
	その他	4 100.0	1 25.0	1 25.0	- -	- -	2 50.0

２）現在

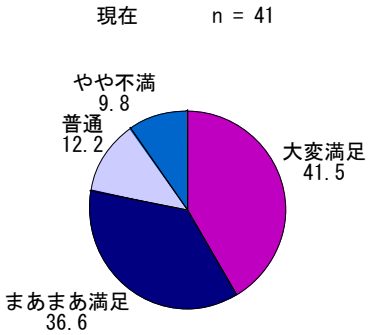
現在の香美市の暮らしの満足度を尋ねたところ、「大変満足」と「まあまあ満足」を合わせた満足派が 32 名であり、「やや不満」と「不満」を合わせた不満派は 4 名にとどまり（図表 20－2－1、図表 20－2－2）、移住直後と比べた変化はほとんど見られないが、明確に「不満」を表明する人は、3 名から 0 名に減っている（図表 20－2－1、図表 20－2－2）。

図表 20－2－1

現在　　(SA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	大変満足	17	41.5	41.5
2	まあまあ満足	15	36.6	36.6
3	普通	5	12.2	12.2
4	やや不満	4	9.8	9.8
5	不満	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 20－2－2



さらに、満足、不満足である理由を尋ねたところ、「趣味や生きがい」、「人間関係」、「住居」、「自然環境」、「仕事」などの順に「大変満足」という割合が高い。逆に、「やや不満」の割合は、「生活基盤（医療、福祉サービス等）」、「交通の便」、「子どもの教育環境」の順に割合が高い（図表 20－2－3）。全体的な傾向としては、移住直後と現在で、満足・不満足の理由に大きな変化は見られない。

図表 20－2－3

現在 × 満足・不満の理由（現在）

上段:度数 下段:%		現在					
		合計	大変満足	まあまあ満足	普通	やや不満	不満
満足・不満の理由（現在）	合計	36 100.0	17 47.2	14 38.9	1 2.8	4 11.1	- -
	人間関係	24 100.0	16 66.7	8 33.3	- -	- -	- -
	交通の便	7 100.0	1 14.3	4 57.1	- -	2 28.6	- -
	自然環境	30 100.0	16 53.3	13 43.3	1 3.3	- -	- -
	子どもの教育環境	8 100.0	3 37.5	3 37.5	- -	2 25.0	- -
	生活基盤（医療・福祉サービス等）	3 100.0	- -	1 33.3	- -	2 66.7	- -
	居住	14 100.0	9 64.3	4 28.6	- -	1 7.1	- -
	仕事	19 100.0	10 52.6	8 42.1	- -	1 5.3	- -
	趣味や生きがい	16 100.0	11 68.8	5 31.3	- -	- -	- -
	原発事故の影響	10 100.0	4 40.0	6 60.0	- -	- -	- -
	食生活	19 100.0	9 47.4	10 52.6	- -	- -	- -
	その他	8 100.0	3 37.5	3 37.5	- -	2 25.0	- -

(21) 県外からの移住希望

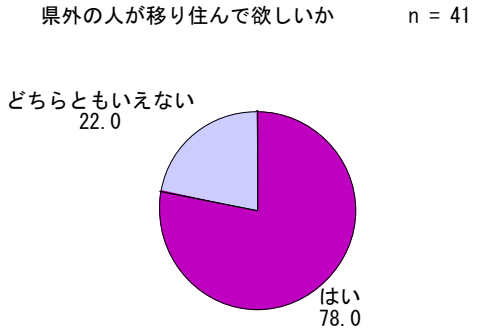
高知県外から香美市にもっと移り住んでほしいかを尋ねたところ、「はい」が 32 名、「いいえ」が 0 名、「どちらともいえない」が 9 名となっており、多くの人が県外からのさらなる移住を望んでいることがわかる（図表 21－1、図表 21－2）。

図表 21－1

県外の人が移り住んで欲しいか (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	はい	32	78.0	78.0
2	いいえ	0	0.0	0.0
3	どちらともいえない	9	22.0	22.0
	不明	0	0.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	41

図表 21－2



(22) 県外からの移住が増えるために必要なこと

(21) との関係で、高知県外から香美市への移住を望む人に、そのために必要なことを尋ねたところ（複数回答可）、「住居確保の支援（情報提供・相談や家賃補助等）」が 24 名と最も多く、「仕事おこしや雇用機会の確保」が 21 名、「教育環境の充実（学校の充実や通学・学習支援等）」が 14 名と多く、「医療福祉その他の生活支援サービスの充実」、「地域への地域住民の受け入れ意識や協力態勢の充実」、「移動や買い物、娯楽等の利便性や楽しみの充実」などが続いている。住居、仕事、教育、医療福祉といった生活の基盤整備や充実が必要と考えられている（図表 22－1）。

図表 22－1

移住者の増加に必要な事　(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	住居確保の支援（情報提供・相談や家賃補助等）	24	58.5	75.0
2	教育環境の充実（学校の充実や通学・学習支援等）	14	34.1	43.8
3	移動や買い物、娯楽等の利便性や楽しみの充実	9	22.0	28.1
4	仕事おこしや雇用機会の確保	21	51.2	65.6
5	医療福祉その他の生活支援サービスの充実	11	26.8	34.4
6	自然災害や鳥獣被害への対策強化	5	12.2	15.6
7	地域への地域住民の受け入意識や協力態勢の充実	10	24.4	31.3
8	その他	9	22.0	28.1
	不明	9	22.0	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	32

県外からの移住増加に必要なことを地区別に見た場合、以下のようになっている（図表22－2）。

図表 22－2

移住者の増加に必要な事 ×
居住地域

上段:度数 下段:%		移住者の増加に必要な事								
		合計	住居確保の支援（情報提供・相談や	教育環境の充実（学校の充実や通学	移動や買い物、娯楽等の利便性や楽	仕事おこしや雇用機会の確保	医療福祉その他の生活支援サービス	自然災害や鳥獣被害への対策強化	地域への地域住民の受け入意識や協	その他
居住地域	合計	32 100.0	24 75.0	14 43.8	9 28.1	21 65.6	11 34.4	5 15.6	10 31.3	9 28.1
	土佐山田	15 100.0	11 73.3	5 33.3	4 26.7	12 80.0	8 53.3	2 13.3	4 26.7	6 40.0
	香北	13 100.0	10 76.9	5 38.5	3 23.1	5 38.5	2 15.4	2 15.4	4 30.8	3 23.1
	物部	4 100.0	3 75.0	4 100.0	2 50.0	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	- -

移住の増加に必要なことを性別に見た場合、男性では「仕事おこしや雇用機会の確保」の割合が相対的に高く、女性では、「教育環境の充実」や「移動や買い物、娯楽等の利便性や楽しみの充実」などの割合が相対的に高くなっている（図表22－3）。

図表 22－3

移住者の増加に必要な事 ×
性別

上段:度数 下段:%		移住者の増加に必要な事								
		合計	住居確保の支援（情報提供・相談や	教育環境の充実（学校の充実や通学	移動や買い物、娯楽等の利便性や楽	仕事おこしや雇用機会の確保	医療福祉その他の生活支援サービス	自然災害や鳥獣被害への対策強化	地域への地域住民の受け入意識や協	その他
性別	合計	32 100.0	24 75.0	14 43.8	9 28.1	21 65.6	11 34.4	5 15.6	10 31.3	9 28.1
	男性	19 100.0	15 78.9	7 36.8	3 15.8	14 73.7	6 31.6	3 15.8	5 26.3	7 36.8
	女性	13 100.0	9 69.2	7 53.8	6 46.2	7 53.8	5 38.5	2 15.4	5 38.5	2 15.4

(23) 移住者に対する行政支援に関する要望

移住者に対する行政支援についての要望を尋ねたところ、インターネットによる空き家等の情報発信や環境整備・改善（15名）、空き家の提供（貸出し）や古民家等のリフォーム補助（8名）、空港に近いこと等のアピール(3名）、病院の不足(3名）、気軽に利用できる施設の整備（2名）、学校の利活用、若者の定住（2名）、雇用の確保、道路の補修や交通の便の改善、地震対策の強化、移住者支援団体の組織化、自立生活の基盤整備、市行政や議会のあり方の改善、商店街の活性化、幼稚園の設置、移住者相談コーナーの設置などが挙げられた（図表23－1）。

とくに、空き家や古民家等の利活用や香美市の積極面をアピールするための情報発信・基盤整備を求める声が強いと言える。

図表 23－1

No.	回答
2	雇用の確保。
3	小児科・救急病院がないのが不便。
4	空港から近いことをアピールしたら良い。
5	香美市として窓口をつくったら良い。 アピールポイント・空港が近い・津波の心配がない・高知市内まで近くて便利・ちょうどよい田舎暮らし。
6	インターネットの環境を整えて欲しい。
7	インターネットで住宅の情報発信。リフォーム補助を出して欲しい。
9	インターネットで空き家情報を提供。 移住を検討している人へ相談窓口が必要。それぞれのニーズに合わせて対応できる、情報豊かで押し付けないような人。
10	小児科・救急病院がないのでつくって欲しい。 香美市のＨＰがわかりづらい。幼稚園・保育園・学校の情報が足りないので、充実させてほしい。
11	インターネットでの情報発信が必要。都会的暮らしとは違った田舎暮らしの魅力をアピールする必要がある。たとえば農業や薪ストーブ（薪割）など。また若者も注目するようにオーガニックや最先端の技術を取り入れた生活が望ましい。
12	小児科・皮膚科が欲しい。都市へ住んでいる人へインターネットで情報を発信させる。 田舎暮らしの良さを伝え、空き家バンクを充実させて欲しい。
15	インターネットで空き家情報を提供（空き家があるのに地元は貸したがらない） 古民家のリフォームを補助してほしい。
16	空き家があるのになかなか貸してくれない。 古民家のリフォーム（台所お風呂トイレなどの水周り）の補助を行政が行って欲しい。 県産材を使ってリフォームしたら良い。
17	古民家のリフォーム（台所おトイレなどの水まわり）の補助を行政が行って欲しい。 住宅情報提供。協力の強化。
18	潜在的移住に対して香美市の良さをアピールすることが足りない。例えば小さなパン屋が美味しいなどＰＲできることはたくさんあるのに売り込みが下手だと思う。 産業おこし、商工活動への支援充実。
19	インターネットで空き家や地域の情報を提供して欲しい。また、山間部の道路を補修したり、交通の便を良くして欲しい。

21	生活する上で必要な地域情報（医療・福祉）または空き家情報を提供。香美市のＨＰを充実させて欲しい。東日本大震災に学び、南海地震対策を強化。
22	住宅の確保、とくに中古物件の貸し手発掘と積極的なコーディネート。
23	移住者が中心となり新しいアイデアを持ったグループをつくり、移住者支援を行う。 インターネットで空き家情報を提供しコーディネートする。運営資金は行政が負担する。
24	個別の支援は必要ないが、自立する為の環境を整えることが大事。 例えば光ファイバー導入など。田舎においても定住する為システムツールは必要。
25	集落活動センターのような、気軽に利用できる施設（集会や宿泊他）があれば 広がるだろう。
26	大きな図書館や市民が低料金で利用できるスポーツ施設（プール）が欲しい。
27	滞在費無料のお試し住宅（古民家）があったら良いと思う。
29	住宅情報が必要。地元の理解を得て、谷相小学校を有効利用するべき。
31	香美市の利点と暮らしぶりをインターネットで発信したら良い。 田舎暮らし用のお試し住宅（古民家）があったら良いと思う。 空き家をなかなか貸してくれないので、行政が窓口になりまた資金援助も行ったら良い。 また若者が農地を購入しにくいのではないか。
32	香美市民が豊かな自然と豊かな食材があることに誇りを持ち、若い世代が楽しんで生活して欲しい。市外へ楽しむ様子が伝わればおのずと移住者が増加する。若者が定住するだろう。 公営住宅の見学を申し出たら、職員の忙しさを理由に断られた。 また、お試し住宅はスペースが狭いため、家族４人の入居は断られた。移住にいたっては、母子の意見が大きく影響するので、家族４人が入居できるお試し住宅（一軒家）が必要だと思う。
33	既移住者が現在の暮らしを楽しめれば良いと思う。当事者の意思を大切にし、何でも、用意してあげる支援は必要ないと思う。受身でないほうが定住するだろう。 香美市のＨＰを、既移住者向けと潜在的移住者向けにわけ、もっと、わかりやすくして欲しい。カテゴリーがわかりにくく、大切な情報を得にくい。 お祭りマップ・スケジュールを掲載するべき。
34	市の行政及び議会のあり方に不満あり。商店街が約30年前とくらべて廃れた。
35	情報は大切だと思う。当事者がある程度苦労して移住しなければ、定住しないだろう。 若い世代を定住させなければ、滅びてしまう。
37	住宅情報を提供したり、公営住宅へ優先的に入居できるようサポートしたら良い。 転入後はあまり特別なことはせず、地元住民と同じように、困ったとき困っている人へ行政サービスが受けられれば問題ない。

38	香北に幼稚園をつくって欲しい。 山田にも私立幼稚園が２件あるのみなので、公立幼稚園が望ましい。
41	市役所のロビー１階（わかりやすい場所）に移住者相談コーナーなどを設置すると良いと思う。

（24）移住者に対する職場・学校・地域の取り組みに関する要望

（23）では行政支援に関する要望を尋ねたが、それ以外に移住者に対する職場や学校（保育所・幼稚園）、地域などの取り組みについて、要望があるかを尋ねたところ、学校と地域の交流（4 名）、休日保育の実施や子育て支援の充実（3 名）、空き家提供に対する地域の理解や情報収集（3 名）、移住者と地元住民の交流や相互理解（3 名）、地域情報の提供（2 名）、教育内容・質の充実（2 名）、イベントや交流の機会の維持・確保、スポーツ環境の充実、香美市独自の商品開発、香美市のアピール、移住者どうしの交流機会、定年退職後の移住者の受け入れ、地域のつながりや町内会機能の強化などが挙げられている（図表 24－1）。

学校と地域の交流、移住者と地元住民の交流、移住者どうしの交流、地域のつながりなど、様々な人的交流が求められている。

図表 24－1

No.	回答
2	保育園・小学校の内容の充実と教育者の質を向上させる。
3	お祭り・イベントが多いのは良いこと。
5	クラブ香美ＩＮＧなど交流の場があれば良い。 また関東（東京）などの交流会があれば良い。
7	地元の理解を得られれば、空き家も提供されるのではないか。
8	地域の行事へ行政も手伝いにきたり、交流を深めることが大切。 それにより空き家等の情報も得られやすい。
11	香美市は県内でも最も技術の高い機関が揃っているので、技術を生かし、香美市にしかない商品を開発できないだろうか。 香美市の自然を生かしもっとアウトドア・レジャー開発に力を入れるべきだ。例えば、東北で釣りを楽しめなくなった人向けに、日ノ御子に、管理釣場を設け活性化させる。ファミリー向けに、河原にきれいなトイレやシャワー宿泊施設を充実させる。そのために、行政が建設資金援助をしたら良いと思う。
15	学校の行事や参観を通じて地元と交流できれば良い。 香北にも「山田日曜市」のようなイベントがあったら良い。
16	どの町内会に入ったら良いかわからなかった。近所付き合いの作法、地域の行事、 イベント情報、公営住宅の空き状況が知りたい。

18	香美市は比較的住みやすいし、移住者が馴染みやすい土地柄であるがそういうことをアピールできていないと思う。
19	消防団のほかにも移住者と地元住民のコミュニケーションがとれる場をつくって欲しい。
22	全体として移住者に対して寛容さを持って欲しい。「県外人」とかの言葉を使う時点で既にウチとソトを区別して冷たい印象を受ける。
23	「熊ちゃん祭」は、出店者がほとんど移住者であり、地元住民も楽しめるイベントになった。移住者同士の意見交換会（移住者サミット）を行い、地元の住民にも聴いてもらいたい。
24	日曜保育を実施して欲しい。
25	移住者支援は行政が後手にまわっていて、既移住者のネットワークの方が強い。 空き家探しやコーディネート等民間の力をうまく使った方が良い。定年退職後の移住者をどのように受け入れていくかも課題である。
26	土日保育を充実させて欲しい。
29	学校の行事や町内会（部落）などに積極的に参加することが大事。役員などを通じて、交流が深まる。
31	学校の行事や町内会（部落）などに積極的に参加することが大事。役員などを通じて、交流が深まる。
32	近所や地域のコミュニケーションを深める中で、移住者のバックグラウンドを理解してもらう。地元住民の受け入れ意識が高まるのではないか。
33	どのように町内会へ入ったら良いかさえわからなかったので、転入時、市役所から詳細を説明した方が良い。レンタルサイクルを充実させるべきだ。乗捨てできるよう数箇所のステーションに３台は確保する。地域スポーツ施設（クラブ香美ＩＮＧ）や習い事など盛んにし、もっと詳しく周知し、参加を促す。
34	共働き世帯のための子育て支援（学童保育など）の充実。根本的には地域住民同士の日ごろのつながりや、町内会機能を強めることが、移住者にとっての暮らしやすさにつながると思う。
35	運動会など学校行事によって、地元住民と交流が深まる。 数年前まで部落に入る為には保証人が必要だった。
37	方言がわからず壁にならないよう、お互いが気をつけて話したら良いと思う。 公営住宅であっても地元住民と同じ班なので、孤立ぜず交流できる。 十年前に比べ、排他的になっているように感じるが、次世代でも繋がれるように日ごろの挨拶や地域の活動を大切にする。

38	地元住民は持ち家を貸すことに抵抗感が強いので、家主や地元住民が「貸してよかった」と思えるような成功例を作るべきではないか。特に移住者が日常を楽しんでいる様子など。また地域を繋がることが大事。
40	学習環境に不満があるので、学校の教育の質を向上させて欲しい。

(25) 将来について

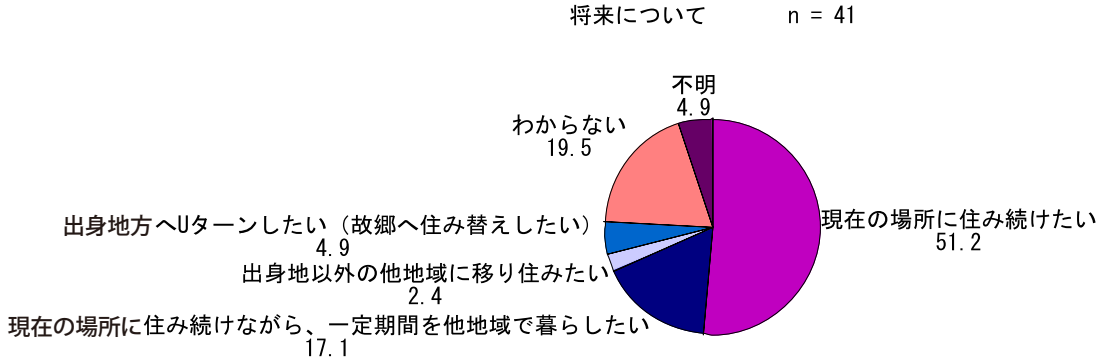
将来について、どのように考えられているかを尋ねたところ、「現在の場所に住み続けたい」という人が 21 名で最も多く、「現在の場所に住み続けながら、一定期間は他地域で暮らしたい」という人が 7 名見られた。「他地域に移り住みたい」や「Ｕターンしたい」という人は合わせて 3 名にとどまる（図表 25－1、図表 25－2）。

図表 25－1

将来について　　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	現在の場所に住み続けたい	21	51.2	53.8
2	現在の場所に住み続けながら、一定期間を他地域で暮らした	7	17.1	17.9
3	出身地以外の他地域に移り住みたい	1	2.4	2.6
4	出身地方へUターンしたい（故郷へ住み替えしたい）	2	4.9	5.1
5	わからない	8	19.5	20.5
	不明	2	4.9	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	39

図表 25－2



(26) 香美市の今の暮らしや今後、ふるさとへの思い

香美市での今の暮らしや今後、ふるさとへの思いなどを尋ねたところ、原発事故によってふるさとを喪失した人への思い、住み続けたい思い（10 名）、自然環境や景観の保全（8 名）、移住者の増加(3 名)、ふるさとへ帰りたい思い（2 名）、地震情報等の提供や地震対策（2 名）、生活や所得の不安（2 名）、自分で運転したい思い、古民家や旧廃校の有効利用、サービス基盤整備、仕事の確保、住居の確保、航空運賃の引き下げ、施設の充実、住み良さ、教育の充実、子どもの増加、両親に対する不安、などが挙げられている（図表 26－1）。個別の不安や課題等を抱えながらも、多くの人が住み続けたいと願っている。

図表 26－1

No.	回答
1	自然に囲まれた中で職が確保できる子育てできる素晴らしさを香美での暮らしで感じる。それを破壊した原発事故の罪深さ。 避難できた人できなかった人という分類だけでなく、したい人、したくない人という分類もあり、さらにリスク有りと思う分類もあり、それらは皆ずれを持っていることに状況の複雑さを感じる。自分は、就職に際し、育った地域を離れていたので、避難で、「ふるさと」をなくした感じは持っていないが、生まれ育ち、そこで働いて、一生を過ごすつもりだった人の原発事故によるふるさと喪失感は想像してもあまりある。
2	夫の仕事があればこのまま住み続けたい。
3	農業のノウハウを学んだら福岡へ帰りたい。
4	車の運転の練習をしたい。
6	とても面白い場所であり、まだまだ奥が深そうなので、これからも楽しみたい。
7	現在も定住できる住居を探している。
8	年寄りになった山主が面倒くさがる間伐などの山のお手入れを若い世代がしたら良い。そのための補助や人手確保が必要。そうすることで日当たりが良くなり水が良質になり、山が生き返る。また地元と交流にもつながる。現在も定住できる古民家を探している。
11	徳島の成功例のように、山間部で昔ながらの古民家を利用し宿泊施設をつくったらどうか？ また高知県は日本で２番目に休廃校が多いので有効利用するべきだと思う。 また四国で唯一残っている原生林の魅力をアピールしたら良い。
12	自然を残して欲しい。
13	今後おこるであろう南海地震と伊方原発の危険性ついて。正確な情報提供してほしい（放射能含）自分に立場を置き換えてシュミレーションすることが大事。行政は、赤字経営を自覚し、もっと成果を上げる必要がある。
14	山田・香北・物部の地域格差がなくなるよう、市議会にはもっと努力して欲しい。 地元民と移住者が共に仲良く暮らせる地域になるようきめ細かなサービス等基盤整備を進めて欲しい。市庁舎新設の前にすべきことがあるのではないか？

15	子供達には香美市をふるさとにしてあげたい。今後も実母と生活したい。現在も古民家を探している。
16	香美市は高知市より移住者が増える可能性が高い。空港から自宅まで車で15分の距離であり、津波の影響もなく生活環境が良いので。ここを拠点に東京・高知間で仕事をしていきたい。田舎の良い風景を残す為に田畑と住居はバランスを調整し、住居が増え過ぎないようにする。外見は古民家でも室内は近代的で便利な住宅が好まれるのではないか。
17	今の美しい風景を残しながら、もっと時代に合った環境づくりを進めて欲しい。 持続できるのであれば、無理に人口を増やす必要はないと思う。
18	便利で住みやすく、地震の心配（津波や地盤の固さ）のない土佐山田に住み続けたい。
19	今の暮らしを継続したい。
20	農業で生計を立てたい。
21	3.11後福島へ持ち家を残したままやむを得ず移住したが、転入時「持ち家がある人は公営住宅に入居できない」と言われた。原発事故後、放射能由来の移住者に対しては、例外を認めて欲しい。
22	航空運賃をもっと安くして欲しい。
23	後10年で人口が激減するだろう。人が住まない山間部は荒れ果ててしまうので、移住者を増やし、現在の生活を絶やさないようにする。
24	大人まで楽しめるような充実した図書館と光ファイバー導入。
25	自然の中で循環できる暮らし。エネルギー自給、廃棄物の再利用他意識を変えていけば素晴らしい生活が実現できると思う。
26	地域に子供が増えて欲しい。
29	終の棲家として考えている。
30	両親が健在なうちは、現在の場所に住み続けたい。
31	個人でも相談を受け、今後も移住者を増やしたい。既移住者が窓口となり、芋づる式に増やしたら良いと思う。
32	収入が不安定なので、まだ生活に不安がある。自然環境は大変良く満足だが、予期せぬ移住だったため、ふるさとへの思いは大きい。いずれは、関東へ戻りたいと思う。
33	現在も定住できる住居を探している。
37	移住者・地元住民の枠にとらわれず、魅力的な地域づくりと所得の安定が大切であり、定住者を増やすと思う。
38	子供へ文化的教育が欠けている。将来選択肢が少ない。
39	ご近所の方が親切にして下さるので、大変住み心地が良い。

40	両親が心配なので、定年後ここに住みつづけるかどうかは未定。
41	今までの生活と違い、とても静かな環境での暮らしに満足している。 頻繁に兵庫（実家）へ戻り、刺激を受けながら田舎生活を楽しんでいる。

(27) 東日本被災地域からの移住者受け入れについて

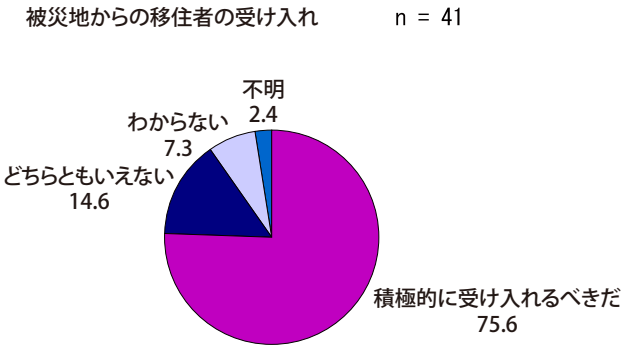
東日本被災地域からの移住者受け入れについては、「積極的に受け入れるべきだ」とい考える人が 31 名と多い（図表 27－1、図表 27－2）。

図表 27－1

被災地からの移住者の受け入れ　(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	積極的に受け入れるべきだ	31	75.6	77.5
2	どちらともいえない	6	14.6	15.0
3	積極的に受け入れるべきではない	0	0.0	0.0
4	わからない	3	7.3	7.5
	不明	1	2.4	
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ	41	100.0	40

図表 27－2



(28) 東日本被災地域からの移住者受け入れのために必要なこと

(27) で「積極的に受け入れるべきだ」と答えた人に、そのために必要なことを尋ねたところ、仕事の確保（8 名）、住居の確保（7 名）、移住者本人の意思の尊重（6 名）、移住者への配慮・協力（3 名）、山村留学（3 名）、ホームステイの受け入れ（2 名）、空き家情報の提供(2 名）、インターネット等の受け入れ環境の整備（2 名）、香美市のアピール（2 名）、住宅の斡旋・提供、空き家のリフオーム補助、被災者への配慮、被災者の経験・知識を生かしてもらう、行政各課の団結した取り組み、住民どうしが仲良くなることで受け入れる意識を高める、生活保障、心のケア、拒まず受け入れる姿勢、などが挙げられた（図表 28－1）。仕事や住居の条件を整えつつも、移住者本人の意思を尊重することを基本的に重視しようとする姿勢がうかがえる。

図表 28－1

No.	回答
1	職と住居（教育環境や生活基盤を含）の確保ができれば自然に好循環するように思う。高知県自体が南海地震に対する備えが十分でない。既に不安に思う人がいるならば、その人達への対応を考える。例えば津波を心配する人達は多いと思うが、慣れ親しむ土地を離れて、すぐにでも移転する人はほとんどいないように思う。条件がある程度合えば、移転したいと思う人はいるであろう。災害への備えと対処の本気さが問われているように思う。
5	来たいと思い人に環境を整えてあげるべき。また積極的ではなく、ソフトに受け入れる。
6	インターネットを整えてあげる。若い人は体力があるので田舎暮らしも大丈夫。
8	住まいの確保。被災者への聞き取り調査を行う。一律ではなく個々への細かな配慮が必要。
9	移住者が積極的に馴染むよう配慮する。行政は空き家情報提供くらいにとどめ、あまり支援しすぎるのはかえって良くない。
11	バイオマス発電や自然のエネルギーを活用することで福島の方にも希望が持てるのではないだろうか。 本人の意識があればサポートは必要だがあまり支援しすぎるのはよくないと思う。 在住者の就労も安定させなければ不満もでるだろう。
12	雇用対策（保証付）をしっかりする。第一次産業農業や林業の担い手となってもらいたい。そのために学習の場を設ける。
13	本当に移住する意思があるのか確認した上で、協力する。
14	住居の確保、住環境の充実、仕事の確保。 「〇〇を整備して受け入れるんだ」という意識の前に「あなた方を受け入れる為には、何が必要ですか？」と問いを発すること。希望者のニーズをきちんと聞いた上で整備を図っていくべき。彼らが望んでいるのか、きちんと把握した上で物事を進めること。
16	住居と仕事の確保が大切。高知は自営業率全国一位なので、商店街の活性化を目指す。若い世代が開業しやすいように賃料を安くしてあげるとか、東北の方に伝統技術を生かした商業を「東北商店街」と称して、盛んにして欲しい。
17	住居と雇用の確保。将来南海地震においては、被災者の経験や知恵が生きるのではないか。被災を機に移住者をｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰにしたら良いと思う。
18	移住当初の住宅を公営で確保すること（土佐山田に）。香北も物部だと交通等で不便だと思う。また雇用確保。農業者に対する支援も含めて。

21	本人の意思があれば受け入れるべき。空き家や農地の情報提供。
22	市長をはじめとした行政各課の一致団結した取り組み。
24	一定期間の生活保障と長期間カウンセリングなど心のケアを受けることができる システムが必要。
25	香美市の立地条件や良さを積極的にアピールするべきだと思う。 空き家のリフォーム補助金があれば良い。
26	本人の意思が大切。
28	受け入れるべきだという気持ちはあるが、当事者の気持ちの方が大事。
29	本人の決意がなければ、定住できない。 被災者だからというわけではなく、生きがいが見つかれば良いと思う。
30	本人の意思があれば受け入れるべき。香北中学校の山村留学も一案。
31	放射能の問題は深刻なので、子供達だけでも受け入れたい。 自宅へホームステイさせたい。山村留学も一案。
32	仕事と住居の確保が一番大事。家族や村ごと集団移住が理想的ではあるが、なかなか 難しいので、個人でも前向きに生きられるよう受け皿を作り、移住後のケアも必要とする。 放射能の問題は深刻であり、長期化するので子供だけの疎開も視野に入れるべきだ。 山村留学や山村ホームステイを実施すれば香美市も活性化するだろう。
33	来る人は拒まず、門は開いておく。
34	地域外の人を受け入れる気持ちの高まりが必要。もっといえば、地域住民同士、もっと 仲良くなること。30年前はもっと良かったが、土佐山田も都会的な気質になってきてい るのではないか。
37	移住後、収入が安定するかや生きがいが見つかるかは本人次第なので、強制的に移住を すすめるべきではない。本人の意思を大切にしなければ定住はできない。
38	香美市が「受け入れますよ」というＰＲが不足している。ＨＰを充実させ、情報提供する。
39	住宅を斡旋するべき。地元住民にも理解してもらい、住宅を賃貸か売却したら良いと思う。

Ⅲ　まとめ

調査対象者の現在の家族構成は、「夫婦と子ども」が 25 名と最も多く、「10 年以上」の長期になっている人が 10 名以上で 3 割程度を占めている。移住先として、香美市を選んだ理由としては（複数回答可）、「自然環境が良い」が 26 名と最も多い。移住についての家族や周囲は「特に何もなかった」が 19 名と最も多く、「賛成してくれた」も 15 名と多い。調査対象者が移住を決める前に香美市に足を運んだ回数は、1～2 回が 26 名と多くなっており、少ない回数で移住を決めている様子がうかがえる。

現在の職業は、自営業が 16 名と最も多い。移住時の家は、「賃貸一戸建て」が 16 名と最も多く、「知人を通して」が 19 名と最も多い。一方、移住を検討している時の香美市に関する情報は（複数回答可）、「インターネット」が 17 名と最も多く、「香美市に住んでいる親戚や知人」が 16 名、「行政への問い合わせ」10 名などとなっている。

香美市への移住を検討している時の不安材料は、どのような点であったかを明らかにするために、多面的に、その程度を尋ねた。住居に関しては、「とても不安」と「まあまあ不安」を合わせた不安派は 16 名であるのに対して、「とくに不安はなかった」という人は 25 名となっている。仕事・就業に関しては、不安派は 15 名であるのに対して、不安なしは 26 名となっている。地域づきあいに関しては、不安派は 12 名であるのに対して、不安なしは 28 名となっている。生活習慣・文化に関しては、不安派は 10 名であるのに対して、不安なしは 31 名となっている。金銭面に関しては、不安派は 15 名であるのに対して、不安なしは 26 名となっている。学校・保育所等に関しては、不安派は 11 名であるのに対して、不安なしは 26 名となっている。全体的に見ると、とくに、「生活習慣・文化」や「地域づきあい」では、不安に感じる人数が少なく、香美市の生活・文化や地域づきあいに慣れてゆくことへの不安は小さいと言える。

移住後の香美市の暮らしの満足度を尋ねたところ、「大変満足」と「まあまあ満足」を合わせた満足派が 33 名であり、「やや不満」と「不満」を合わせた不満派は 4 名にとどまる。さらに、満足、不満足である理由を尋ねたところ、「住居」、「趣味や生きがい」、「人間関係」、「自然環境」、「食生活」などの順に「大変満足」という割合が高い。逆に、「不満」の割合は、「生活基盤（医療、福祉サービス等）」、「子どもの教育環境」、「交通の便」の順に割合が高い。現在の香美市の暮らしの満足度を尋ねたところ、「大変満足」と「まあまあ満足」を合わせた満足派が 32 名であり、不満派は 4 名にとどまり、明確に「不満」を表明する人は 0 名に減っている。満足、不満足である理由は、全体的な傾向としては、移住直後と現在で大きな変化は見られない。満足している理由に相当することを生かしつつ、（移住後の）不満とする理由に相当する条件を充実させることが、一層の移住による満足度を高めることになるであろう。

高知県外から香美市にもっと移り住んでほしいかを尋ねたところ、「はい」が 32 名、「いいえ」が 0 名となっており、多くの人が県外からのさらなる移住を望んでいることがわかる。そのために必要なことを尋ねたところ（複数回答可）、「住居確保の支援（情報提供・相談や家賃補助等）」が 24 名と最も多く、「仕事おこしや雇用機会の確保」が 21 名、「教育環境の充実（学校の充実や通学・学習支援等）」が 14 名と多く、住居、仕事、教育、

医療福祉といった生活の基盤整備や充実が必要と考えられている。移住の増加に必要なことを性別に見た場合、男性では「仕事おこしや雇用機会の確保」、女性では、「教育環境の充実」や「利便性や楽しみの充実」などの割合が相対的に高くなっている。

移住者に対する行政支援についての要望を尋ねたところ、インターネットによる空き家等の情報発信や環境整備・改善（15 名）、空き家の提供（貸出し）や古民家等のリフォーム補助（8 名）、空港に近いこと等のアピール(3 名）、病院の不足(3 名）、気軽に利用できる施設の整備（2 名）、若者の定住（2 名）などが挙げられた。とくに、空き家や古民家等の利活用や香美市の積極面をアピールするための情報発信・基盤整備を求める声が強いと言える。

移住者に対する職場や学校（保育所・幼稚園）、地域などの取り組みについて、要望があるかを尋ねたところ、学校と地域の交流（4 名）、休日保育の実施や子育て支援の充実（3 名）、空き家提供に対する地域の理解や情報収集（3 名）、移住者と地元住民の交流や相互理解（3 名）、地域情報の提供（2 名）、教育内容・質の充実（2 名）などが挙げられている。学校と地域の交流、移住者と地元住民の交流、移住者どうしの交流、地域のつながりなど、様々な人的交流が求められている。

将来について、どのように考えられているかを尋ねたところ、「現在の場所に住み続けたい」という人が 21 名で最も多く、「現在の場所に住み続けながら、一定期間は他地域で暮らしたい」という人が 7 名見られた。

香美市での今の暮らしや今後、ふるさとへの思いなどを尋ねたところ、住み続けたい思い（10 名）、自然環境や景観の保全（8 名）、移住者の増加(3 名)、ふるさとへ帰りたい思い（2 名）、地震情報等の提供や地震対策（2 名）、生活や所得の不安（2 名）などが挙げられている。個別の不安や課題等を抱えながらも、多くの人が住み続けたいと願っている。

東日本被災地域からの移住者受け入れについては、「積極的に受け入れるべきだ」とい考える人が 31 名と多い。そのために必要なことを尋ねたところ、仕事の確保（8 名）、住居の確保（7 名）、移住者本人の意思の尊重（6 名）、移住者への配慮・協力（3 名）、山村留学（3 名）、ホームステイの受け入れ（2 名）、空き家情報の提供(2 名）、インターネット等の受け入れ環境の整備（2 名）、香美市のアピール（2 名）、などが挙げられた。仕事や住居の条件を整えつつも、移住者本人の意思を尊重することを基本的に重視しようとする姿勢がうかがえる。

今回の調査結果から、香美市への移住者の多くが移住や受け入れを肯定的に捉えていることが明らかとなった。その移住を促進するためには、空き家の活用など、様々なアイデアが提起されており、その実現に向けた検討が求められる。

県外からの移住者を受け入れるための香美市在住・移住の先輩アンケート

本アンケートは移住促進策の参考とするため、既に県外から香美市に移住し生活されている皆様に対し実施させていただきます。

本調査には無記名でお答えいただくうえ、内容については個人が特定されることがないよう統計処理させていただきますので、可能な限りありのままお答えいただきますよう、ご協力お願い申し上げます。

調査員記入欄

調査日
平成　　年　　月　　日

居住地域
① 土佐山田　② 香北　③ 物部

性別
① 男　② 女

１．あなたの年齢を教えて下さい。

① 20歳代　② 30歳代　③ 40歳代　④ 50歳代　⑤ 60歳代以上

２．現在の家族構成をお聞かせください。

① 単身　② 夫婦のみ　③ 夫婦と子供

④ 三世代同居（子供ならびに自分または配偶者の親と同居）

⑤ その他（　　）

３．移住当時の家族構成をお聞かせください。

① 単身　② 夫婦のみ　③ 夫婦と子供

④ 三世代同居（子供ならびに自分または配偶者の親と同居）

⑤ その他（　　）

４．移住して何年になりますか。

① １年未満　① １～３年　② ３～５年　③ ５～10年　④ 10年以上

５．香美市に移り住む（移住）前はどちらにお住まいでしたか。

（都道府県名：　　）

→移住前お住まいだった地域は市部ですか、町村部ですか？

（　① 市部　・　② 町村部　）

６．移住先として香美市を選んだ主な理由は何ですか。（複数回答可）

① 家族、親戚、友人が住んでいる　　② 交通の便が良い

③ 移住前の居住地から近い　　④ 自然環境が良い

⑤ 教育環境が整っている　　⑥ 生活基盤（医療・福祉等）の充実

⑦ 家、土地が安い　　⑧ 就業先（仕事）がある

⑨ 農業ができる　　⑩ 趣味が満喫できる

⑪ 原発事故の影響　　⑫ 美味しい食材がある

⑬ その他（　　）

７．移住についての、ご家族や周囲の反応はどうでしたか。

①賛成してくれた　　②反対された　　③特に何もなかった

「賛成してくれた」または「反対された」とお答えの方へお尋ねします。

ご家族や周囲の方からどのような意見がありましたか。具体的に教えてください。

８．移住を決めるまでに香美市に足を運んだ回数を教えて下さい。

（　　回）

９．現在のご職業を教えてください

① サラリーマン　② 農業　③ 自営業　④ その他（　　）

10. 移住前のご職業を教えてください。

① サラリーマン　② 農業　③ 自営業　④ その他（　　）

→設問９・10で選択肢が異なる方にお尋ねします。

ご職業が変わらざるを得なかった理由を教えてください。

11. 移住時のお住まいについてお聞かせください。

① 持ち家　② 賃貸ｱﾊﾟｰﾄ・ﾏﾝｼｮﾝ　③ 賃貸一戸建て　④ 公営住宅

⑤ その他（　　）

12. 移住時のお住まいはどのように探しましたか。

① インターネット　② 知人を通じて　③ 不動産会社

④ 市役所など行政の支援で　⑤ その他（　　）

13. 現在のお住まいは移住時と同じですか、変わりましたか。

① 変わった　② 変わらない

↓

お住まいが移住時と「変わった」とお答えの方にお尋ねします。

現在のお住まいはどのように探しましたか。

① インターネット　② 知人を通じて　③ 不動産会社

④ 市役所など行政の支援で　⑤ その他（　　）

14. 移住を検討しているときに香美市の情報をどこから集めましたか。（複数回答可）

① インターネット　② 移住パンフレットや関連イベント

③ 広報誌　④ 行政への問合わせ

⑤ 雑誌・テレビ・新聞　⑥ 香美市に住んでいる親戚や知人

⑦ その他（　　）

15. 移住を検討しているとき、以下のそれぞれの項目について、不安はありましたか。
また、「① とても不安だった」、または「② まあまあ不安だった」場合、どのような点が不安だったか具体的にお答え下さい。（複数回答可）

15－１．住居

① とても不安だった
② まあまあ不安だった
③ とくに不安はなかった

例：家賃、利便性、地震

15－２．仕事・就業

① とても不安だった
② まあまあ不安だった
③ とくに不安はなかった

例：収入減、仕事環境の変化

15－３．地域づきあい

① とても不安だった
② まあまあ不安だった
③ とくに不安はなかった

例：新しい住民として受け入れてくれるか、近所づきあいが苦手、
趣味や同好の仲間が見つかるか

15－４．生活習慣・文化

① とても不安だった
② まあまあ不安だった
③ とくに不安はなかった

例：医療・福祉サービス、買い物、方言に慣れることができるか

15－５．金銭面

① とても不安だった
② まあまあ不安だった
③ とくに不安はなかった

例：収入の安定、金銭の管理

15－６．学校・保育所等

① とても不安だった
② まあまあ不安だった
③ とくに不安はなかった

例：通学・通園の時間距離、子供が馴染めるか

16．移住後、香美市での暮らしはどうですか。

16－１．移住直後

① 大変満足　② まあまあ満足　③ 普通　④ やや不満　⑤ 不満

「満足」または「不満」とお答えの方にお尋ねします。その具体的な理由を教えてください。（複数回答可）

① 人間関係
② 交通の便
③ 自然環境
④ 子供の教育環境
⑤ 生活基盤（医療・福祉サービス等）
⑥ 住居
⑦ 仕事
⑧ 趣味や生きがい
⑨ 原発事故の影響
⑩ 食生活
⑪ その他（　　）

16－２．現在

① 大変満足　② まあまあ満足　③ 普通　④ やや不満　⑤ 不満

「満足」または「不満」とお答えの方にお尋ねします。その具体的な理由を教えてください。（複数回答可）

① 人間関係
② 交通の便
③ 自然環境
④ 子供の教育環境
⑤ 生活基盤（医療・福祉サービス等）
⑥ 住居
⑦ 仕事
⑧ 趣味や生きがい
⑨ 原発事故の影響
⑩ 食生活
⑪ その他（　　）

17. あなたは高知県外から香美市にもっと移り住んでほしいと思いますか。

① はい　　② いいえ　　③ どちらともいえない

↓

「① はい」とお答えの方にお尋ねします。移住者が増加していくために必要なことはどのようなことだとお考えですか。（複数回答可）

① 住居確保の支援（情報提供・相談や家賃補助等）

② 教育環境の充実（学校の充実や通学・学習支援等）

③ 移動や買い物、娯楽等の利便性や楽しみの充実

④ 仕事おこしや雇用機会の確保

⑤ 医療福祉その他の生活支援サービスの充実

⑥ 自然災害や鳥獣被害への対策強化

⑦ 地域への地元住民の受け入れ意識や協力体制の充実

⑧ その他（　　）

18. 移住者に対する行政の支援について、ご要望などございましたら教えてください。

19. 移住者に対する職場や学校（保育園・幼稚園）、地域などの取り組みについて、ご要望などございましたら教えてください。

例：移住者への理解や協力など…

20. 将来についてどのようにお考えですか。

① 現在の場所に住み続けたい

② 現在の場所に住み続けながら、一定期間を他地域で暮らしたい

③ 出身地以外の他地域に移り住みたい

④ 出身地方へＵターンしたい（故郷へ住み替えしたい）

⑤ わからない

21. その他、香美市での今の暮らしや今後、またふるさとへの思いなどございましたらご自由にお話し下さい。

22. 東日本大震災の被災地からの移住者の受け入れについてどう思われますか。

① 積極的に受け入れるべきだ　　② どちらともいえない

③ 積極的に受け入れるべきではない　　④ わからない

→「① 積極的に受け入れるべきだ」とお答えの方にお尋ねします。

そのために必要なことはどのようなことだとお考えですか。

ご協力ありがとうございました。

依光晃一郎県政報告会バックナンバー

- ●高知県大学生の地域活用調査報告書
- ●移住ニーズアンケート調査報告書
- ●24年度　９月定例会（本紙）
- ●23年度　２月定例会予算委員会
- ●楽しく防災をめざした防災拠点づくりに関するアンケート報告書
- ●23年度　６月定例会
- ●香美市人口の推移

依光晃一郎後援会HPよりダウンロードできます。
http://yorimitsu.gr.jp/hokoku/

複写・複製は可能です。積極的にご活用ください。

依光晃一郎後援会
〒782-0051　高知県香美市土佐山田町楠目446-2
TEL 0887-52-9222　FAX 0887-53-2074
URL http://yorimitsu.gr.jp/
E-mail info@yorimitsu.gr.jp